TOPICS

伐採工事とリサイクル、生木に事業特化
第16期経営指針発表会を開催

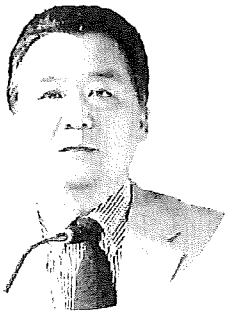
㈱BWM

伐採工事と木質バイオマスリサイクルが主力の㈱BWM（宮城県仙台市青葉区大町2-10-14 TAKAYUパークサイドビル2階、齋藤博社長、伊藤俊明会長、☎022-796-9377）は4月21日、仙台市青葉区のエル・パーク仙台セミナーホールで「第16期経営指針発表会」を開催した。前社長で現会長の伊藤氏の発案で、「まずは10回継続して盤石な会社を作ろうと始めた発表会」で、今回で6回目を迎える。2017年にビーネットホールディングス㈱をホールディングカンパニー（HD）とし、事業会社としてBWMが伐採工事や中間処理、㈱B-NETが総合環境コンサルティング、B-forest㈱が堆肥生産やリサイクル製品の販売とする体制に改組しており、新組織下での初の発表会となる。また、BWMは今年4月から大和プラントで実施してきた建廃等の産廃木くずのチップ化と廃石膏ボードのリサイクル事業から撤退し、同プラントも含めて中間処理は生木廃材（未利用バイオマス）のリサイクルに特化しており、その点でも節目の催しとなった。

会は齋藤社長のあいさつで始まり、「宮城県からみやぎエコファクトリーの認定を受けた大和プラントの石膏ボード等の事業を2017年度で終了した。今は2014年度に開設した南方プラントと並び、生木専用施設として始動した」等と語った。

発表会では前期（2017年度、15期）の担当者等による事業報告を基に、過去の事業を振り返るとともに、第16期経営基本計画を軸として今後の事業展望も行った。15期と過去15年間を振り返る中で、東日本大震災以降の特に直近の数年間は産廃業からバイオマス事業の急転換を図ってきた。15期は（その1つの象徴として、）生木チップ由来のおか粉等を堆肥化する豊里リサイクルセンター（登米市、総面積1万3300㎡）を設けた。大和プラントでは刈草の受け入れを行うため一般廃棄物の処理許可も取得した。工事部では伐採工事が減少したものの国土交通省の案件も含め各工事で高い評価を得ており、今後の受注増に期待が掛かる。南方プラントでは伐採・抜根材に付着した土砂と木を徹底選別するスタースクリーンを導入し、選別・処理効率が格段に上昇した。第16期の経営基本計画では、大和と南方の2拠点で生木廃材のリサイクル実績の増加を目差す。今期から公共の伐採工事の入札参加資格を得た。ドローンを使った山林管理業務や山林購入を進め、登米市で農業生産法人の立ち上げも企図する。

閉会では伊藤会長があいさつに立ち、「私たちのこれからはビーネットHDグループ全体の事業展開となる。今回の発表会の報告や2016年度の方針作りはすべて齋藤社長の主導で行ったもので、非常に思いのこもった内容になった」と述べている。


伊藤俊明会長

齋藤博社長